

ゆうかく



2024 JUN.

vol.86

安岡正篤先生に学ぶ、「学問の意義と楽しみ」

「人間は逆境・難境に遭遇すると、如何に学問が大切であるかということがわかります。真の学問をやっておれば、しみじみ問題を考えることができます。考えることができれば、自ずからそこに光も差す、期待もわく、又楽しみも生じてくるものです。だから人間はやはり学問をしなければいけません。と言つても形式的な、功利的な、世俗の学問では駄目でありまして、老荘や禅で言うところの絶学の学、良知の学、正学を学ばなければいけない。またそういうところにわれわれの学道、講学の一つの妙味があるわけです」と、東洋哲学の泰斗、安岡正篤先生は、学問とその意義を述べています。

新学期が始まりました。大学に入学する目的の一つは、多面的な学びに思います。70年の我が人生を今振り返ると、学びの中では、「人間力」(自立した一人の人間として力強く生きるための人としての力)と「専門力」の学びが重要と感じます。社会人になり仕事に従事すると「専門力」の学びは、不可欠ですが、多忙な日々に「人間力」の学びを継続するのは、難しいことです。しかし、この「人間力」の学びは、二度ない人生を生きる上で重要であり、複雑な人間関係が錯綜する社会を生き抜くには必要に思います。

さらに、先生は、「心を打たれ、身に沁みるような古人の書を、我を忘れて読みふけるとき、生き

ていてよかったです」という喜びを感じる。そんな書物に出会うと、時間だの空間だのという制約を離れて、真に救われる。ああ、確かにそうだ、と所謂解脱に導かれる。そういう愛読書を持つことが、またそういう思索体験を持つことが、人間としていちばん幸福であって、それを持つと持たぬとでは、人生の幸福は懸絶してくる」と、学問の楽しみを紹介しています。

私達は、一生で経験することに限りがあります。それを補うためにも、書物からの学びは、不可欠でしょう。「心を打たれ、身に沁みるような古人の書を、我を忘れて読みふける」体験を通じ、学問の楽しみを味わいたいと思います。また、それは、人間力を培う上で必要かもしれません。学生の皆さんのが新学期に「古人の書」を味読され「人間力」について学ばれることをお勧めします。

山形学習センター所長

安田 弘法





令和5年度 第2学期学位記授与式を開催しました

「令和5年度第2学期学位記授与式」を令和6年3月24日（日）に山形学習センター101教室において開催しました。

今回、本センターからは、教養学部19名並びに大学院文化科学研究科修士課程1名の皆さんに学位を取得されました。当日は、出席された8名の方々に、安田弘法所長から、お一人お一人に学位記が手渡されました。

山形学習センターでは、卒業時に特に優秀な学業成績を修められた学生について、顕彰しており、今回は、3つ目のコースを卒業された菅野和子さんが「生涯学習奨励賞」を受賞され、安田所長から賞状と記念品が手渡されました。

安田所長の式辞では、卒業生に対し、卒業まで長年に渡り努力され学位を取得されたことに、お祝いと労いのお言葉があり、また、「卒業は新たな挑戦への出発である」「二度ない人生で教養を身に付ける重要性」「生涯学び続ける習慣の必要性」の三つについて、ご紹介がありました。

様々なご苦労や困難を克服されて、ご卒業された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が、全科履修生の目標の一つになっています。今後とも放送大学をよろしくお願いします。

【教養学部】

生活と福祉コース	……………	4名
心理と教育コース	……………	7名
社会と産業コース	……………	2名
人間と文化コース	……………	3名
情報コース	……………	1名
自然と環境コース	……………	2名

【大学院文化科学研究科修士課程】

臨床心理学プログラム	……………	1名
------------	-------	----



学位記授与式を終えての集合写真



卒業者体験談

生活と福祉コース 岸 道子さん

社会に出て初めて“若い頃にこうしておけばよかった”と後悔することが誰にでもあるのではないか。仕事と家庭と子供の大学と夢中で過ごてきて、一段落した時に自分も成長したい、若い頃にやり残した大学で勉強したいと思ったのが入学のきっかけでした。

科目生として10年間、仕事を退職してから全科生として7年間お世話になり、卒業することができました。通信生として学ぶことは時に孤独を感じることもありますが、学習して知識が増えることで張り合いや楽しさを感じますし、面接授業では受講生の方の考えも聞くことができます。単位をためながら、自分のペースで学習できることは、とても有難かったです。

コロナ禍の中、面接授業をしてくださった先生方、職員の方々、一緒に学んだ仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。一年一年歳はとりますが、今より少しづつでも自分自身が変化していくよう、放送大学企画の講演会やサークル活動などの場を大切にしながら、学んだ知識や探求心を忘れずに過ごしていきたいと思います。

「ちょっと生きやすくなった私」

生活と福祉コース 田中 幸一さん

仕事をリタイア後は、いかにしたら楽しくやれるか？ チームティーチング・教員業務支援員・放課後サポート等を耳にしたことがある。ちっちゃな小学生と一緒に算数などをして、放課後過ごせたらどんなに良いだろうか。しかし、私には教育の知識は全然無かった。そこで放送大学の心理と教育コースに入学しました。

学び始めるうちに、私は発達障害に近いのではないかと思えてきました。数に関する学習理解は早くすぐ出来るのだが、英語の学習で単純に覚えることは苦手。同時に複数のことをやるのが苦手。多面的に考えるのが苦手。入学当初の「教育について勉強する」から「私自身を知り、私自身を理解する」に目標が変化しました。この心理と教育コース・生活と福祉コースの履修は、私にとって最高の学び直しでした。そして、ちょっと生きづらいのが少し解消されたのではと思います。心にもゆとりが生じて、他者への思いやりも今まで以上に可能になったかと感じています。再入学については、米沢の山形大学工学部図書館内の放送大学視聴ルームを時々利用させていただきながら考えていきたい。

「納得できるまでやる」

心理と教育コース 稲嶋 太弘さん

学びは楽しいという気づきは大きな財産であつたけれど、学歴コンプレックスは残り、これを解決しなければならないと考えた。あるいは、自分の職業を確立するために教養を身に付けた学士になることは必須と考えた。そのため、私の学び方はOUJのテキストを音読することで、それを最低でも1冊につき3回は行つた。テキストの最初から最後までの文字を片つ端から音に変えていった。五感をよく刺激し、暗記するつもりで行つた。

また、論文を書くことは自分の中では卒業要件に必須だった。自分が納得するため、後になって振り返った時に、ちゃんと論文を完成させて卒業したという結果を残しておきたかった。そして、院での学びを考慮すれば大切な経験だと思った。

今、教養学士となって「知識は力」であると心から思う。そして、また新しい上り道を歩み始めたから、進み続けたい。限りはないのだが、大切なことは自分が納得することだと思う。学部で学ばれている方々と共有することができて感謝である。

心理と教育コース 小野 裕子さん

保育現場への再就職を目指して、3年前に編入学しました。離職していた20年間に様変わりした保育制度、教育要領、そして子どもを取り巻く環境について学びたいと考えたからです。講義を通して今の時代の保育を学ぶことは、とても新鮮で楽しい時間でした。とはいえ、卒業予定だった半年前に1教科2単位を落としてしまい、落ち込んだこともあります。それも、今となってはよい思い出です。

長いブランクに加え、決して若くもない年齢ですが、幸いなことに、在学中に保育現場に再就職することができました。それぞれの講義での学びを、日々の保育を通して実際に体験し、様々な事柄がつながっていました。単位取得後に理解できたこともたくさんあります。

放送大学への編入学は、長く家庭に入っていた私の社会復帰への足掛かりとなりました。学びの機会に恵まれた感謝を、仕事はもちろんのこと、少しでも社会にいかせたらと考えます。ありがとうございました。

社会と産業コース 菅野 和子さん

私は入学時卒業を一つの目標にした。先輩からは学位記授与式はNHKホールで行い全国から集まるのでそれはそれは素晴らしいものだ、一度は行ってみるべきだと教えられすっかりその気になった。いよいよ、卒業を迎えたとき、コロナが始まり授与式は中止となつた。そして、次に迎えたとき、まだ、コロナは収まらず今度は体調悪く出席はできなかつた。ようやく、この度出席することができ大きな喜びである。これまでの道のりは平坦ではなかつた。でも、英語講読会のサークルに入り、いろんな方との出会いがあり、先輩の貴重な話を聞き、躊躇いたときはアドバイスを受け、ここまでたどり着けたことに感謝している。先輩に「勉強って楽しいのよ。」と教えられた言葉を大切にしている。

これからもさらに知識や教養を身に付けたいと思っている。

人間と文化コース 斎藤 耕一さん

放送大学に入学し学ぶ切つ掛けとなったのは定年退職後、最上義光歴史館でボランティアガイドとして全国から来館されるお客様を案内しているうちに、もっとしっかり日本史を学ぶ必要性を感じ、まずは選科履修生として入学し日本史関係を主に学んでいましたが放送大学エキスパート認証制度があることを知りそれを目標にし、最初は歴史系博物館活動支援次に異文化理解支援を学び放送大学エキスパート認証カードを修得することができました。

これにより自信がつき全科履修生となり、かならず卒業する信念のもと、無理をせず楽しみながら学ぶことをモットーに学び苦し^く孤独の時もありましたが、今回「人間と文化コース」を卒業認定となり学士の学位を授与され大変良かったと喜んでいます。

苦しく孤独の時間は、今は充実した楽しい時間であったと思い学んで良かったと思っています。

放送大学で学んだことは歴史館等の案内に大いに役立つものであります。今後とも活用していきたいと思います。

人間と文化コース 鈴木 孝子さん

以前、美大の通信制を受講したいと考えたことがありました。学費とスクーリングとが障壁になり断念しました。その後に就いた仕事で、日本の古典文学についての知識や学士がある方がよいと感じ、学費の負担が軽くスクーリングもしやすい放送大学の受講を決めました。文学のみならず美術や自然科学やそのほか多岐にわたる授業があるので、様々な分野のことを学べてよかったです。4年間での卒業を目標にし、計画的に単位を取得しました。3年目に、他県に住む従弟も私と同じ時期に放送大学に入学していましたことを知り、叔母を通して互いの状況報告などをしていました。従弟も今学期で卒業となり、今後は資格取得のための勉強をするようです。私は、学長の岩永先生のオンライン授業で生涯学習の意味と大切さを知り、また放送大学の中に興味のある授業がまだまだありますので、再入学して今度は少しゆっくりと学んでいきたいと思っています。



令和6年度第1学期入学者の集いを開催しました

令和6年4月13日(土)に山形学習センター講義室において「令和6年度第1学期入学者の集い」を開催しました。

始めに、安田弘法所長から、入学者の皆さんにお祝いのお言葉があり、また、「積極的に学びを楽しむ」「縁を大事にする」「学びの習慣の重要性」の三つについて、ご紹介がありました。

その後、ガイダンスとして、センターの利用方法や修学上の注意事項等について、学習センターウェブサイトやシステムWAKABAの画面等を確認しながら、詳細な説明を行いました。

最後に、当センターに所属する5つのサークル(ゆうがくの会、英語講読会、国文学を読む会、パソコンクラブ、書道サークル)の代表者の皆さんから、各サークルの紹介と入会のご案内がありました。

当日は、対面で4名、オンライン(Zoom)で4名の入学者の皆さんが出でました。



安田所長の『ワクワク情報の小窓』

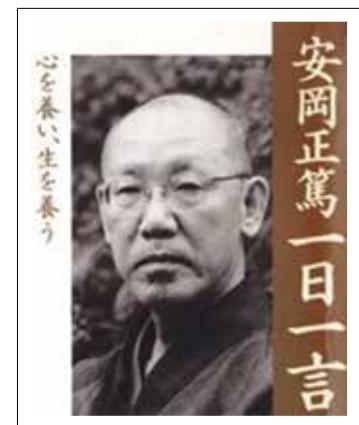


『ワクワク情報の小窓』は、山形学習センターが目指す3つのセンターのうち「人間学の学びのセンター」に関連する情報を中心に紹介します。今回は、「人間学:安岡教学に学ぶ(7)学問の本義」について少し紹介します。

【人間学:安岡教学に学ぶ(7)学問の本義】

我々は何の為に学を欲してやまぬか。知識才能を啓発する為であるか。之に対しても純真な自我は答える。否、我々は論理的機械でも無ければ世渡道具でも無い。知識や才能は枝葉に過ぎぬと。それでは功名富貴の為であるか。如何なる愚者も心中に弦く、否如何考へてもそれではないと。それでは何の為に学ぶか。復び純真な自我は答える。何の為でもない。学ばなければならぬから学ぶのだ。学ばずには居られないから学ぶのだ。この我が造化の明徳が弥が上にも光明に雄偉に崇高になければならぬのは絶対的な命だ。是の如き命を我は本分(性)とするのだ。この本分に率うのが道、この道を開拓するのが学問の本義だと。

(安岡正篤著、『郷研清話』、「学問の本義」より)



安岡師は、「学ばなければならぬから学ぶのだ。学ばずには居られないから学ぶのだ」と、「学び」の動機を説明する。本質を突いた味わい深い教えに思う。そして、座右の書を持ち、それを読み続けることを勧める。師の著書を読むと忙しい日常を忘れ、しばしの間、心が安らぎ落ち着く。そして、生き方を思索するひと時を味わえる。師の教えは、二度ない人生を生き切る貴重な羅針盤に思う。



令和6年度 山形学習センター客員教員紹介



荒木 志伸

山形大学学術研究院 教授(学士課程基盤教育機構)

専門:日本考古学

専門は日本考古学です。山形の山寺立石寺や出羽三山、宮城の松島・瑞巖寺など、靈場の歴史的調査をおこなっています。歴史に少しでも興味がある方は、ご相談やご質問を受け付けております。どんなことでも構いませんので、気軽にお問合せください。皆さんの学生生活が楽しく豊かになるよう、お手伝いさせて頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



近藤 慎一

山形大学学術研究院 教授(理学部担当)

専門:有機化学、分子認識化学

早いもので客員教員として5年目を迎え、今年度が一区切りとなります。コロナ禍も一息で、様々な行事や交流が以前に戻りそうな気配です。学生の皆さんも学習センターを利用する機会が増えてきたのではないかでしょうか。私の専門分野は化学ですが、理系科目全般の学習相談があれば、いつでもお声がけください。可能な限り対応いたします。パソコンソフトの使い方などでもお役にたてると思います。



佐藤 寿晃

山形県立保健医療大学 教授

専門:作業療法学、リハビリテーション学

客員教員をしております佐藤寿晃(さとう としあき)です。

専門分野は、作業療法学、リハビリテーション全般です。今年度の【学びのサロン】では、睡眠を考える～より良い睡眠を得るために～をテーマに、皆さんと睡眠について考えていきたいと思います。興味がありましたら、是非ご参加ください。



藤田 洋治

元 山形大学学術研究院 教授

専門:古典文学、国語教育

放送大学にお世話になって、5年目、最後の年度となりました。私は、日本の古典文学、特に和歌文学を中心に研究してきました。が、山形に来てからは、江戸時代後期の地方歌壇としての庄内地方の和歌活動を調査しています。どうしても見過されがちな分野なのですが、実際しっかりと資料も残っているのです。京都や江戸などの交流も多く、そのレベルの高さに驚きながらも、楽しく調べています。目の前の課題には発見が多く、地域の方々が興味を持って目にできるようにしたいものだと考えています。



小泉 有紀子

山形大学学術研究院 准教授(人文社会科学部担当)

専門:英語学・心理言語学・英語教育

昨年着任し、本年度は2年目になります。専門分野は英語学・心理言語学・英語教育で、人間の言語理解のメカニズムや、英語の学習法・指導法に興味があります。昨年は、手探りながらも英語の学習についての「学びのサロン」や学習相談等で、学生の皆さんとさまざまなお話ができた、充実した1年でした。今年も皆さんの学びのお手伝いに少しでもなればと思っています。よろしくお願いします。



関口 雄一

山形大学学術研究院 准教授(地域教育文化学部担当)

専門:教育臨床心理学

客員教員5年目になりました。専門は教育臨床心理学で、子どもの心理学的支援について研究や実践、教育を行っていて、子ども達の中で“やらされたらやり返すのはOK”という考え方がどのように形成されるかに関心を持っています。

心理学は人間の心と行動を科学的にまた実証的に探究する学問です。人間の心や行動がかかわるすべてが研究対象になります。ですが、心理学は高校までの時間割には基本的に載っていないため、どのような学問なのかイメージを持ちにくいかもしれません。

心理学がどんな学問か気になる方や、私たちの日常の行動や心に対するふとした疑問を抱かれた方は、お気軽に学びのサロンや学習相談をご利用ください。



千葉 登

山形県立保健医療大学 准教授

専門:リハビリテーション学、身体障がい作業療法学

専門はリハビリテーション学、作業療法学です。健康増進にも興味あり、以前はマラソンを趣味にしていましたが、最近は登山もやっています。

私も放送大学で選科履修生として学んだことがあり、その時学んだことは今でも役立っていることが多いです。

卒業・修了まで計画的に進めることは大変なことかもしれません、微力ながらご協力させていただければと思います。



半田 直子

山形県立保健医療大学 准教授

専門:看護技術、家族看護

客員教員3年目になりました。専門分野は看護学です。看護は人を思い、その人に必要な支援を考えて、実践する学問です。私の専門は、看護技術・家族看護・フィジカルアセスメントなどで、看護を学ぶために必要な基礎をつくる部分を担当しています。

皆様が学習を進める中で感じた疑問や問い合わせ一緒に考え、学びを深めるお手伝いができればと思っています。学ぶことで世界は広がります。今まで知らなかつたことが「わかる!」、その喜びを放送大学で実感してください。



面接授業探訪

「山形の酒造りと文化」 荒木 志伸 先生

1日目は、山形大学農学部で山形の日本酒の特徴や取り組み、日本酒の歴史について学びました（ゲスト講師 小関俊彦山形県酒造組合特別顧問）。2日目は、酒造りの現地見学として、「出羽ノ雪酒造資料館、鶴岡市大山地区街並、本長瀬物蔵、致道博物館、酒田酒造」を訪問しました。山形の優れた酒造りに関して実際の現場を視察や杜の方のお話を聞きし、試飲も交え、体験しながら学習しました。

学生からは「先生に質問した際、丁寧で的確に返答していただいた」「県外から来た価値がありました」と好評を得ています。

2024年度第2学期にも開講を予定しています。

「心理学実験2」 藤岡 久美子 先生

学生が自身のパソコンを持ち込んで授業を受けるBYOD形式の授業を、山形で初めて開講しました。

授業は、PC上でオンライン実験を行い、Excelやグーグルクラスルームを活用してレポートを作成、各学生のパソコンからプリントアウトしてレポートを完成しました。

使い慣れた自分のパソコンを使用しての授業でしたので、Wi-Fiの接続も含めスムーズに授業が進みました。



第2学期の面接授業 予告

2024年度第2学期には、山形にゆかりの新規科目も含め多彩な科目を開講する予定です。

「オーケストラの世界を探求する」 西濱秀樹・阪哲郎

山形交響楽団の皆様を講師に招き、リハーサル見学なども実施します。

「化粧品の化学」 野々村美宗

2024年2月にご講演をいただいた「化粧品学」をさらに学んでみませんか。

「考古学から見た山寺 立石寺」 荒木志伸

2日目には、立石寺を散策しながら現地で学習を深めます。

「樹氷から分かる地球環境と蔵王史」 柳澤文孝

「蔵王、樹氷研究」第一人者から、蔵王の今を受け取ってください。

「ことばとコンピュータ」 原一夫

AIやディープラーニングにつながる「言語」「コンピュータ」の世界に触れましょう。(BYOD科目)

「鳶重と京伝—江戸文化の仕掛け人」 山本陽史

2025年「大河ドラマ」の主人公「鳶屋重三郎」。ドラマ世界への理解に是非。

「地域と美術館」 岡部信幸・黒澤匠

山形美術館で「学芸員」の方に解説をいただきながらの「収蔵作品の鑑賞」を行います。



山形SCサークルのとびら

パソコンクラブ



「共に学び教え合うなかで交流を深めて、学生生活を楽しむ」
思いを表すため、名称を「教室」から「クラブ」へと変更しました。

毎月第1木曜日13:00～15:00まで、山形学習センターの講義室で開いています。

前半は同じ課題に取り組み、休憩（ティータイム）を挟んで、後半はそれぞれの課題に取り組みます。

- 案内文書・一覧表・図表をパソコンで作りたい。
 - なんとなくパソコン使えるけど、基本を覚えたい。
 - パソコンをしばらく使っていないと忘れる。
 - 単位認定試験のために、パソコンを始めざるを得なくなつた。
- etc.

初心者から上級者まで、まずはおいでください。

国文学を読む会



現在、『更級日記』を読んでいます。

これまで『枕草子』『紫式部日記』等を読んできました。テキストを音読、その後先生が分かりやすく内容を説明してくださいます。

登場する人々の略系図や地図、そしてその時代の物語や関係する資料等も合わせて教えていただいております。ぜひ一度見学にお越しください。

- 日 時 毎月1回 第2火曜日 午後1時30分～3時
- 講 師 船越榮 先生（元東北文教大学教授）
- 会 費 3か月 1,000円
- 会 場 霞城セントラルビル 23階 高度情報会議室



同窓会通信

5月8日に本年度総会を開催し、次のとおり確認・決定されました。

- 〈1〉 6月12日（水）会員研究発表会を開催 【前代表】平泉 良一 氏 【テーマ】「谷地軌道物語」
 - 〈2〉 10月 研修旅行「米沢市 上杉博物館企画展」
 - 〈3〉 スマホ教室開催 スマートフォンは、いまや生活の必需品です。便利な機能が満載ですが、利用するのは電話だけという人もおられます。そこで、スマホの便利な機能について、会員みんなで、YouTubeを見ながら一緒に学びます。
 - 〈4〉 毎月第2水曜日午後1時30分から、定期的に「役員会」を開催します。来年（令和7年）9月初旬に開催する「東北・北海道ブロック同窓会交流会山形大会」の当番同窓会として準備を進めていきます。
なお、〈2〉と〈3〉の開催日やどのように進めるかは、現在同窓会役員会で検討中です。
- 同窓会会长は、平泉良一さんが退任され、新たに柳澤卓さんが就任されました。平泉さんには、長年にわたり同窓会を牽引していただきありがとうございました。

すべてのお問合せ・資料請求・お申込みは

► インターネットでも出願や資料請求（無料）ができます！ www.ouj.ac.jp

放送大学

検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836 FAX 023-646-8838

E-mail [yng-sc@ouj.ac.jp](mailto:ymg-sc@ouj.ac.jp)

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/>

